

令和 4 年度
第 71 回東北地区高等学校PTA連合会
盛岡大会②



コロナ禍ですが、東北各県から集まりました。



志田実行委員長、渾身の「えん」

学校PTA連合会盛岡大会



大会終了後、後片付けをしながら
写真撮影。

皆さん、お疲れ様でした。



小原校長も
駆けつけ、会
場係のお手
伝い。

午前中会場係だった盛岡四高の皆さん(向かって左)と一緒に写真を撮りました。



看板が下
に降りてい
ます。



令和 5 年の東北大会は福島県で行われます。

PRにいらした福島県の方々。

「桃がおいしいですよ」

「リンゴがおいしいですよ」

「着ぐるみはももりんです」



オープニングセレモニーの様子。達曾知事からもご挨拶いただきました。



会場系の勢揃いの図。左から、校長、中村会長、志田実行委員長……。皆さんお疲れ様でした。

《編集後記》

☆もつと写真撮影出来たのに、結局作業中は一緒に動くため、あまり皆さんの働きぶりをお伝えすることは出来ませんでした。平日の二日という貴重な時間を割いて頂き、ありがとうございました。北高PTAの人間力の高さを再確認いたしました。☆「私、寒河江君の同級生だよ」というお話もあり、裏方なりの楽しみもあるのです。財布をなくして見つかった人、朝来るときに追突された人、ないようでいろいろあった二日間でした。☆高校生のアトラクションも、盛岡二高、盛岡商業、盛岡一高、不来方高校、花巻北高校と、東北六県の人々に感銘を与えたと思います。☆私、個人的には南部美人の社長、久慈浩介さんの講演が良かった。短期留学でアメリカに行き、日本酒のオンリーワンの価値をアメリカ人に目覚めさせられたこと。外国の人は価値の大小で判断するという話に、深く首肯しました。久慈さんは英語で、日本酒文化を伝え、その上で酒を飲ませる。まずは脳で味わってもらう。文化的な背景に感動して、それが味覚となって商品が評価できる。唯一の価値(日本酒は日本だけ)を大事にすれば十分世界で戦える、そう久慈さんは語っていました。「会社の規模ではない。商品の価値が決める。」良い台詞でした。☆医療用のアルコールが枯渇したときの、厚生労働省の通達の話も面白かった。酒造業者は医療用アルコールを造ってはいけない。この垣根を取っ払ったのがコロナ禍であった。医療用アルコールを酒造業者が作って良いとなったとき、岩手県に200人余りいる医療ケア児に医療用のアルコールを届ける話に、いろいろ考えさせられました。日本全国には医療ケア児が2万人ほどいるそうです。消毒用アルコールが需要拡大し、本当に必要な医療ケア児に届かない。それを、酒屋に作って良いと通達を出さざるを得ない厚生労働省。☆酒がうまくて「ありがとう」と言われたことはあったが、命を救って「ありがとう」と言われたのはこの時が初めてだと久慈さんは言っていました。☆酒造りという一事をとっても、やりようによっては世界につながり、命を救うんだという話は迫力があり、高P連東北大会に裏方として参加して良かったと思いました。(菊池)